

## 第6回 長野広域連合ごみ処理施設整備計画等専門委員会議事概要

[日 時] 平成22年11月9日 13:30～16:55

[会 場] 東京ステーションコンファレンス

[出席者]	専門委員	4名
	長野広域連合	5名
	日本環境衛生センター	1名
	エイト日本技術開発	4名

### 委員会協議概要

#### (1) 第5回委員会議事録の承認

議事録について承認された。

#### (2) ごみ処理広域化基本計画（素案）について

事務局から、ごみ処理広域化基本計画（素案）について説明し、協議を行った。

##### <委員意見等>

- ・ごみ量の実績から予測するとトレンドがもっと下がる感じがしてしまうので、単なる機械的なトレンド予測ではなく、市町村別に積算して予測したというような説明が必要である。
- ・各家庭での発生抑制とか、収集運搬段階での資源化などに取り組んでも最後に残るものをきちんと熱回収し、加えて、焼却灰はスラグ化とかいろいろ資源化にチャレンジしていくということが重要である。
- ・最終処分場については跡地計画も重要。災害防止も含めて、市民のプラスになる総合施設としての位置付けを地元市と協議する必要があるのでは。
- ・管理運営については公営か民営かは議論の余地があるが、公営にしる民間活力の導入ということも考えていかなければいけない。
- ・各市町村の一般廃棄物処理基本計画との関連性を示しつつ、本計画の位置付けを明確にする必要がある。

#### (3) 溶融処理を基本とした場合の最終処分場整備に関する課題について

事務局から、溶融処理を基本とした場合の最終処分場整備に関する課題について説明し、協議を行った。

##### <委員意見等>

- ・生成物等の比重の考え方だが、例えばスラグの比重については前提条件となる溶融対象物の粒径や、スラグの磨砕有無等がわからないと設定することは難しい。

- ・埋立対象物について、飛灰処理薬剤の種類によっては最終処分場の水処理システムに影響を与える。また、塩類の問題も近年は注目されている。したがって、中間処理施設の検討を行う際にはこれらの最終処分場に関する事項にも配慮してほしい。
- ・埋立を行う際には、飛灰処理物とスラグとに分けて埋める工夫を行う方が、維持管理が容易であると考ええる。
- ・上記の検討は必要だが、詳細に検討しようとするケースが多岐に渡り評価が難しくなるため、ある一定の条件整理はしておく必要がある。

#### (4) 最終処分場の追加調査について

事務局から、最終処分場の追加調査について説明し、協議を行った。

<委員意見等>

- ・地すべりブロックの範囲特定が一番重要であり、その結果により対策方法の検討等ができる考える。
- ・調査結果を踏まえ、対策に要する費用がどの程度必要になるかも重要な要素と考える。
- ・現地の情報について、入手可能なものは事前に入手しておく必要がある。

#### (5) 第7回専門委員会予定

平成23年1月18日（火）とする。

以上